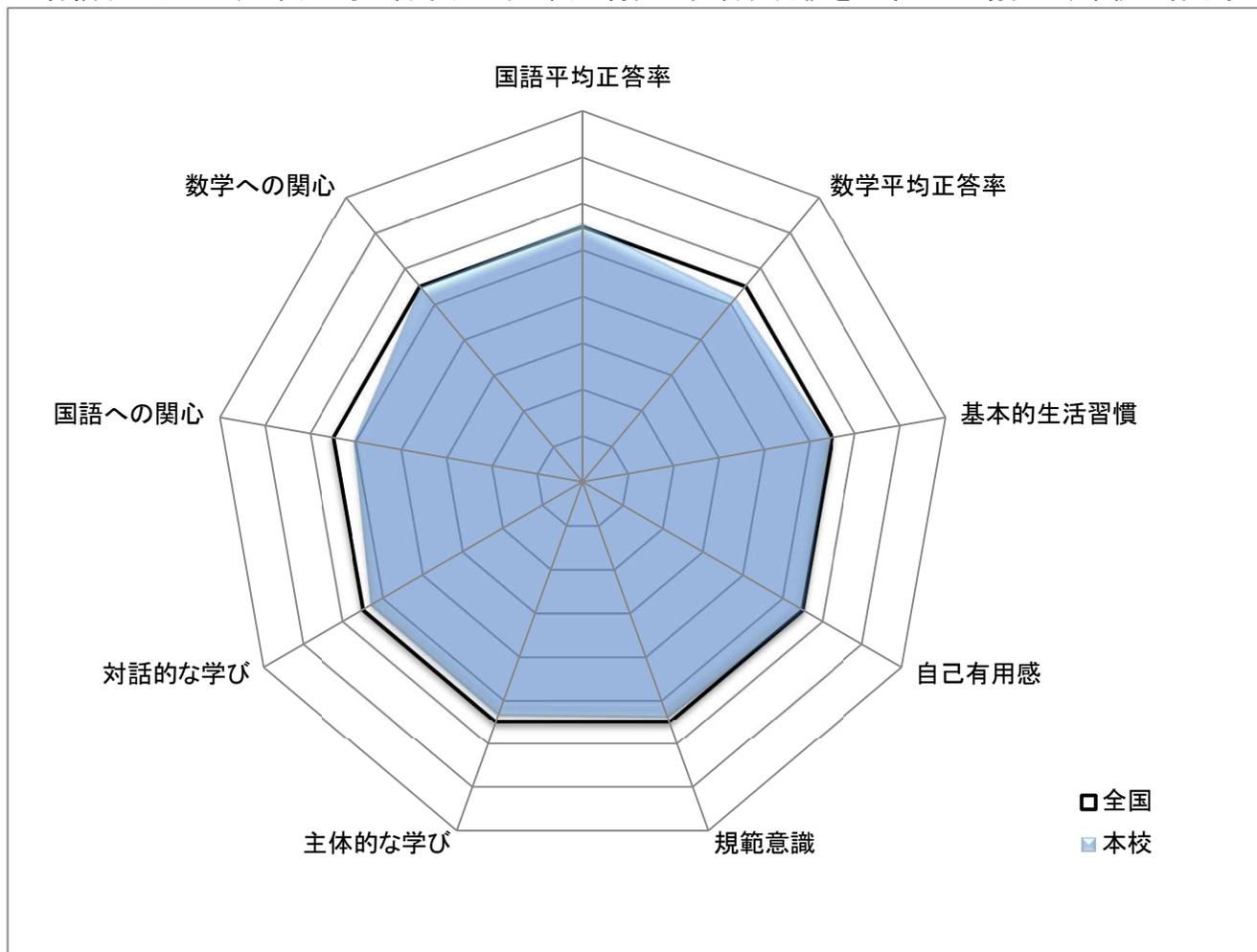


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語では、学習指導要領の3領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の平均正答率において、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」において、平均正答率をわずかに上回っている。一方で「読むこと」の領域は平均正答率を下回っている。また「知識・技能」の評価の観点の問題の平均正答率が大幅に下回っている。全体的に「知識・技能」の分野など、学習を反復して内容を定着させることが不十分であると結果から分析できる。

数学では、学習指導要領の4領域(「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」)の平均正答率において、「図形」、「関数」の領域で全国平均を下回っている。特に「知識・技能」の評価の観点の問題の平均正答率が大幅に下回っている。無解答率が高い記述式の問題が多いことも課題として挙げられる。どの分野にも共通した課題となっているのは、基本的な知識の習熟が不十分であると結果から分析できる。

《授業改善のポイント》

現状把握で書いた通り、どの分野にも共通した課題となっているのは、基本的な知識の習熟が不十分であると結果から分析できる。まずは、基本的な内容の習熟を授業で図ることができるようになっていく。数学では、習熟度別少人数授業の特性を活かし、わかったつもりになるのではなく、学び合い活動などを取り入れた授業展開から内容をしっかりと定着できるようにしていく。

また、国語では、工夫されている点や工夫した方が良い点について具体的な箇所を示しながら意見を述べたり、自分の表現に役立てたりする力を育成することに力を入れていくなど、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」ことができるようになっていく。また、相手や場に応じた言葉づかいで表現する力の育成にも心がけていく。

《チャートの特徴》

全体的に全国平均と同じような結果となっている。若干ではあるが、「国語への関心」「数学の平均正答率」は全国平均より低い結果となった。基本的な生活習慣については、全国平均並みではあるが、内容をもう少し細かく分析したところ、質問紙の睡眠・食事の項目については、全国や東京都の結果より若干低い結果となっていた。また、平日の1日当たりのスマートフォン等でのSNSや動画視聴については、全国平均と比較し、「3時間以上、4時間より少ない」の割合が5.7%上回っていた。詳細としては、全国平均より「4時間以上」で1.8%、「3時間以上、4時間未満」で6.7%それぞれ上回っているという結果になっている。スマートフォン等でのSNSや動画視聴の時間の増加は生活習慣の乱れや家庭学習時間の減少にも影響を与えていると思われる。自己有用感に関する質問に対しては、肯定的な回答が全国平均より高いものが多くあった。これからの結果から、多くの生徒が将来に希望をもち、何事にも前向きに取り組んでいることがうかがえる。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒の基本的な学習習慣を家庭と学校と一体となって確立することで、基礎基本の学力を上げていくことが必要である。家庭学習の大切さや生活習慣・SNSや動画視聴の時間など、生活リズムについての重要性を呼びかけることを保護者会などで呼びかけ、基礎学力の定着を図る。